

ウェルビーイング調査を活用した我が国における信頼度の測定結果について
-速報 (2024 年 1 月 30 日時点)-

桑原進¹

要旨

本稿は、2023 年 11 月に内閣府経済社会総合研究所が実施したウェルビーイングに関する調査に含まれる、信頼度に関する調査結果の概要を速報として報告するものである。OECD における測定結果との比較から、統計的な信頼性が確認できた。また性、年代、学歴と関係があり、一般的信頼や知っている人への信頼は特に主観的幸福と相関すること、政府等への信頼度はワクチン接種と密接な関係があること、様々な信頼度が官民連携への期待と関係することなどが分かった。

本文

1. 調査の概要とサンプルの分布

本稿は内閣府経済社会総合研究所と一橋大学経済研究所との共同研究の一環として 2023 年 11 月に実施されたウェブ調査をもとに分析を行ったものである。一橋大学は、内閣府経済社会総合研究所との国際共同研究の一環として 2021 年 11 月、2022 年 11 月に「コロナ禍の生活影響と行動変容に関する調査」を実施した²。コロナ禍における行動変容をパネルデータ分析の手法で分析するため、2019 年から 2022 年にかけて内閣府が実施した「満足度調査・生活の質に関する調査」と調査客体を接続する形でサンプルを選定している。このデータセットを発展し、ウェルビーイングの研究を進めることを目的に、今回は内閣府経済社会総合研究所が実施したものである。

調査票を設計するにあたり、セクション 2 で後述するように政府の信頼度への関心が世界的に高まっていることから、国際比較も念頭に、OECD(2017)のガイドラインに沿った信頼度に関する質問を追加しており、今回の分析が可能となっている。

今回調査のサンプル総数は 3120 である。2022 年 11 月の調査における回答者を中心に 3000 名程度をめどに要請し、結果、継続回答者 2011、新規回答者 1109 名となっている。継続回答者を優先したうえで、新規回答者を、地域・性・年齢構成等のバイアスを修正するために、年齢層別の割り当てに基づき、追加的に募集している。本調査はウェブ調査であり、回答者は業者が保有する回答者パネルから希望者を募集しており、純粋な確率的無作為抽出ではない。

¹ 一橋大学経済研究所附属世代間問題研究機構教授

² 小塩他(2023)。

結果として得られたサンプルの属性別の状況は別表1のとおりである。継続回答者を優先した結果、回収目標数と比較し、高齢者がやや多いという結果となっている。

2. 信頼度に関する質問と過去の質問との比較、OECDにおける共同調査結果との比較

2008年以降の公的機関への信頼の低下への危機感がOECD加盟諸国間で共有され、2013年のOECD閣僚理事会でOECD信頼戦略が始動した。その成果の一つとして測定のためのガイドライン³が公表された。その後、コロナ禍を通じて公共機関への信頼の重要性がさらに注目され、2021年および2023年に「公的機関における信頼の推進力に関するOECD調査」⁴(OECD Trust Survey)が実施された。この調査では、国際的な関心の変化を反映し、信頼の水準の測定だけでなく、信頼の水準に影響を及ぼす項目の調査に力点が置かれている。今後は、調査結果を用いつつ、ガイドラインを改訂する予定となっている。わが国も2021年調査には参加しており、今回調査と結果を比較することが可能である。

内閣府経済社会総合研究所が実施した今回の調査では、OECDが2017に公表したガイドラインの邦訳⁵における中核的質問に完全に沿ったものを用いている。具体的には以下の通りである。

Q6.信頼に関する一般的な質問をします。「全く信頼していない」を0点、「完全に信頼している」を10点とすると、一般的に、あなたはほとんどの人々をどのくらい信頼していますか。

Q7.「全く信頼していない」を0点、「完全に信頼している」を10点とすると、一般的に、あなたはご自分が個人的に知っているほとんどの人々をどのくらい信頼していますか。

Q8.あなたが日本の様々な制度・組織を信頼しているかを尋ねます。これらの制度・組織とほとんど、または全く接点がない場合でも、これらに対するあなたの一般的な印象に基づいて教えてください。

1.国会、2.警察、3.行政サービス

これらの問に対する回答の平均値等の特性値は図表1、分布は図表2の通りである。知っている人への信頼度が比較的高く、国会への信頼度が低い。

³ OECD(2017)

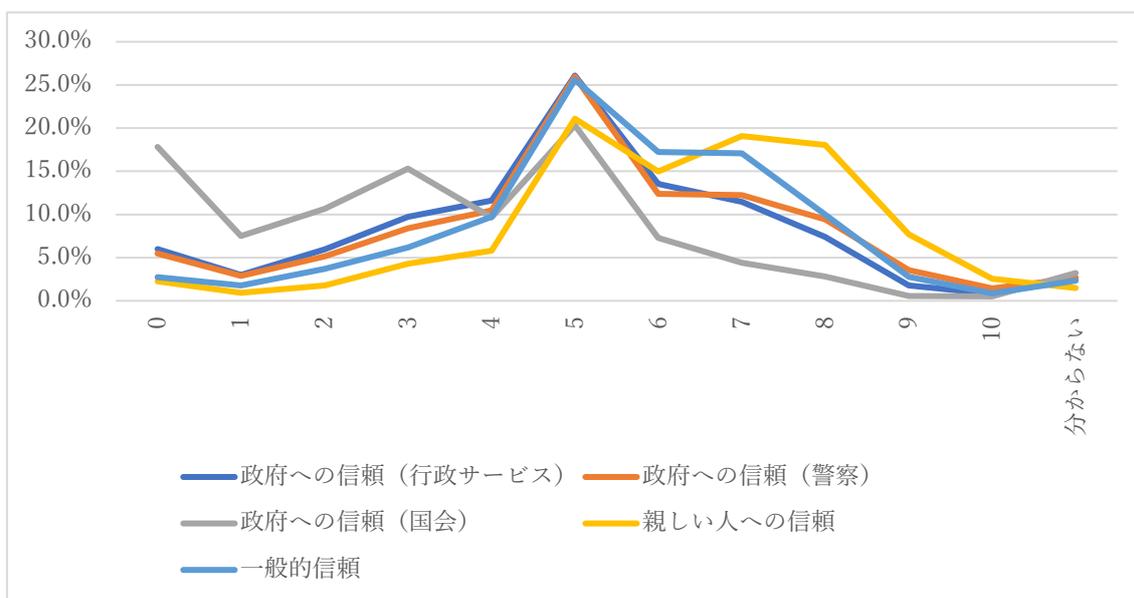
⁴ OECD(2022)

⁵ OECD 編著(2019)

図表1 信頼度の水準

	平均	標準偏差	高位(6以上)回答者割合	「わからない」選択者数
一般的信頼	5.44	1.99	49.10%	73
知っている人への信頼	6.18	2.05	63.27%	46
政府への信頼 (国会)	3.33	2.35	16.06%	100
政府への信頼 (警察)	5.05	2.29	40.09%	82
政府への信頼 (行政)	4.78	2.02	35.92%	83

図表2 回答の分布



回答の分布からは、国会への信頼において、低い層が厚いことが見て取れる。一方、知っている人への信頼は高い層が厚い。

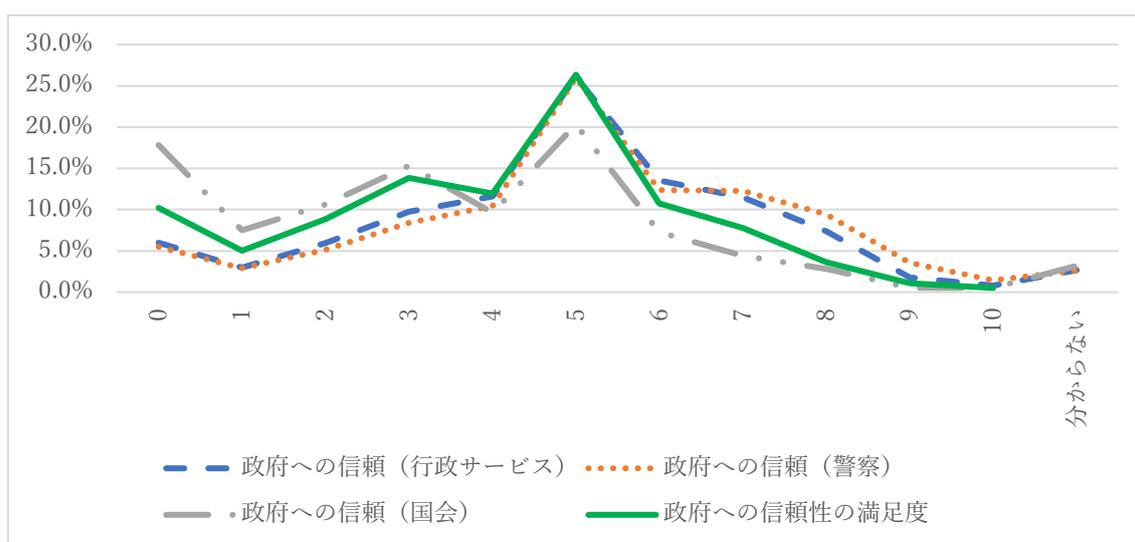
一方、内閣府経済社会システム統括官が実施してきた満足度・生活の質に関する調査、および一橋大学と実施してきた過去3回の調査では、生活の局面別の満足度の一環として以下の質問で政府の信頼度を調査してきた。今回の調査でも同じ問いを調査に含めている。

生活に関係するさまざまな分野における満足の度合いについて、「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか1つだけ選んでください。あなたご自身のことについてお答えください。

政治・行政・裁判所への信頼性：全く満足していない 0点—非常に満足している 10点

今回調査した国会、警察、行政の三つの部門を一つの項目で質問する形になっているところ、回答結果の分布をみると、おおむね三つの信頼度の平均値に相当しており、構成概念妥当性を満たす様子がうかがえる。各信頼度間の相関係数を計算したところ、特に今回調査の政府の三つの尺度とそれぞれ高く、満足度・生活の質調査の質問も信頼度の尺度として高い精度を持っていると考える。特に国会との相関係数が大きい。

図表3 今回調査と満足度・生活の質調査における政府の信頼度の比較



図表4 政府の信頼度間の相関係数

	一般	知っている人	国会	警察	行政サービス	満足度
一般的信頼	1					
知っている人への信頼	0.7673*	1				
政府への信頼 (国会)	0.4335*	0.3097*	1			
政府への信頼 (警察)	0.5301*	0.4856*	0.5730*	1		
政府への信頼 (行政サービス)	0.5715*	0.4890*	0.6768*	0.7812*	1	
政治・行政・裁判所への信頼性の満足度	0.5064*	0.3716*	0.7335*	0.5286*	0.6303*	1

(注)*は1%有意。「分からない」とする回答は除いて計算。

一方、OECDが2021年に実施した調査の日本版では、Box1の質問が使われている。内閣府が実施した調査と比較し、意味は同じであるものの、表現に違いがあり、さらに公的機関の選択肢が多い。OECDは回答者が6以上の回答を行ったものの割合（わからない、無回答除く）を図表に利用している。比較可能な調査項目のうち結果が公表されてるものにつ

いてみると、水準は内閣府調査の方がやや低いものの、調査時点⁶の違いと考えられる。国会が低く、警察が高いという傾向は一致している。OECDにおける調査も YouGov 社を通じた Web 調査がほとんどであり、わが国の調査も YouGov 社経由で国内商用パネルを利用した Web 調査で実施されていた。従って今回の内閣府が実施した調査と調査モード、母集団は一致する。今回調査結果の統計的精度は OECD 調査との比較から十分な信頼性を備えていると考える。

図表 5 OECD 調査結果との比較(6-10 回答者割合、%)

	OECD(2021)	今回調査(2023)
国会(legislature)	19.29	16.06
警察(police)	47.67	40.09
行政(civil service)	31.13	35.92
(参考)national government	24.05	NA

Box 1 OECD Trust Survey における質問

[Q1] 最初に、信頼について概括的にお尋ねします。0 を「全く信頼していない」、10 を「完全に信頼している」として、0 から 10 の段階でお答えください。一般的に、あなたは他者をどの程度信頼していますか。

(回答の選択肢:「0 全く信頼していない」から「10 完全に信頼している」、「わからない」)

次に、日本の各種公的機関等への信頼についてお尋ねします。対象となる公的機関等とのかかわりがほとんど無い場合や、全くない場合であっても、あなたの一般的な印象でお答えください。

[Q2] 0 を「全く信頼していない」、10 を「完全に信頼している」として、次の各項目をどの程度信頼しているか、0 から 10 の段階でお答えください。

(中央政府(national government)、地方政府(local government)、国会/議会(legislature)、政党(political party)、警察(police)、公務員(civil service, 中央政府または地方自治体の選挙で選ばれていない職員)、報道機関(media)、裁判所および法制度(courts and legal system)、国際機関(international organization))

(回答の選択肢:「0 全く信頼していない」から「10 完全に信頼している」、「わからない」)

⁶ OECD の調査時点は 2021 年 11 月 29 日から 12 月 15 日であり、季節性による違いはほとんどないと考えられる。従って、純粹に変化した可能性が高い。

3. 属性別の信頼度の状況

① 性・年代別

性別にみた場合、政府（国会、警察、行政サービス）への信頼の平均値に男女差はほとんどない一方、一般的信頼、知っている人への信頼では平均に対する t 検定において 1%水準で有意な違いが存在する。男性が低い。

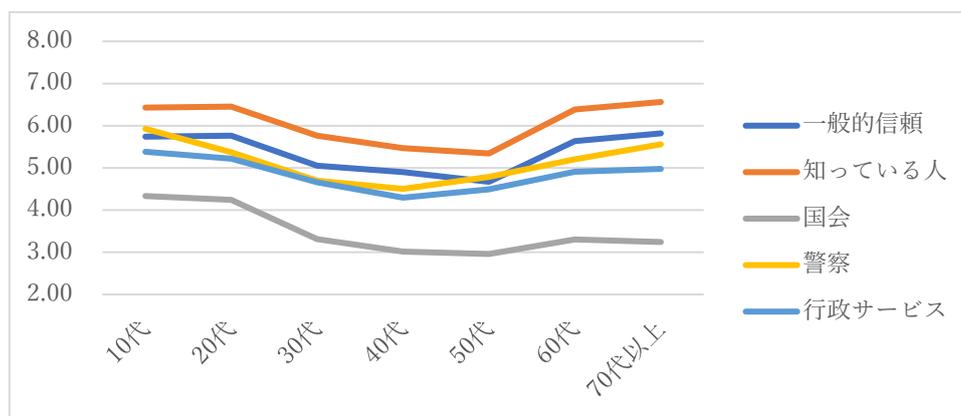
図表 6 性別の信頼度

	回答者数(分からない除く)		平均		標準偏差	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
一般的信頼	1496	1551	5.33	5.54	1.97	2.01
知っている人への信頼	1505	1569	6.02	6.33	2.08	2.02
国会	1496	1524	3.35	3.31	2.40	2.30
警察	1496	1542	5.08	5.03	2.34	2.25
行政サービス	1494	1543	4.77	4.79	2.22	2.18

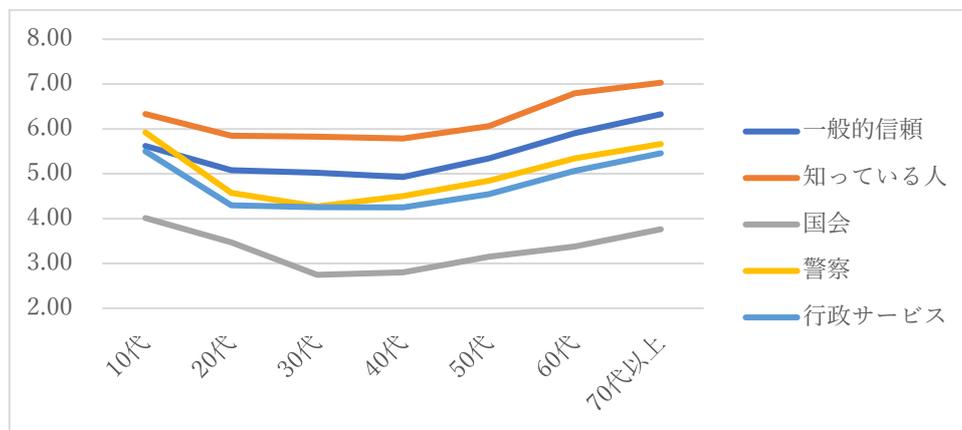
年齢別の動向にも違いがある。全体に U 字形となっているが、減少するタイミング、底を打つタイミングが異なる。男性は 10 代から 20 代での信頼度の減少が相対的に小さい。女性の場合、20 代で大きく下がるが国会を除き 20 代から 40 代にかけて変化が大きくない。国会に対する信頼の場合、男性では 20 代が相対的に高い一方、50 代が底となり、高齢になってもあまり回復しない。女性は 30 代が底である。

図表 7 性・年齢別の信頼度平均

男性



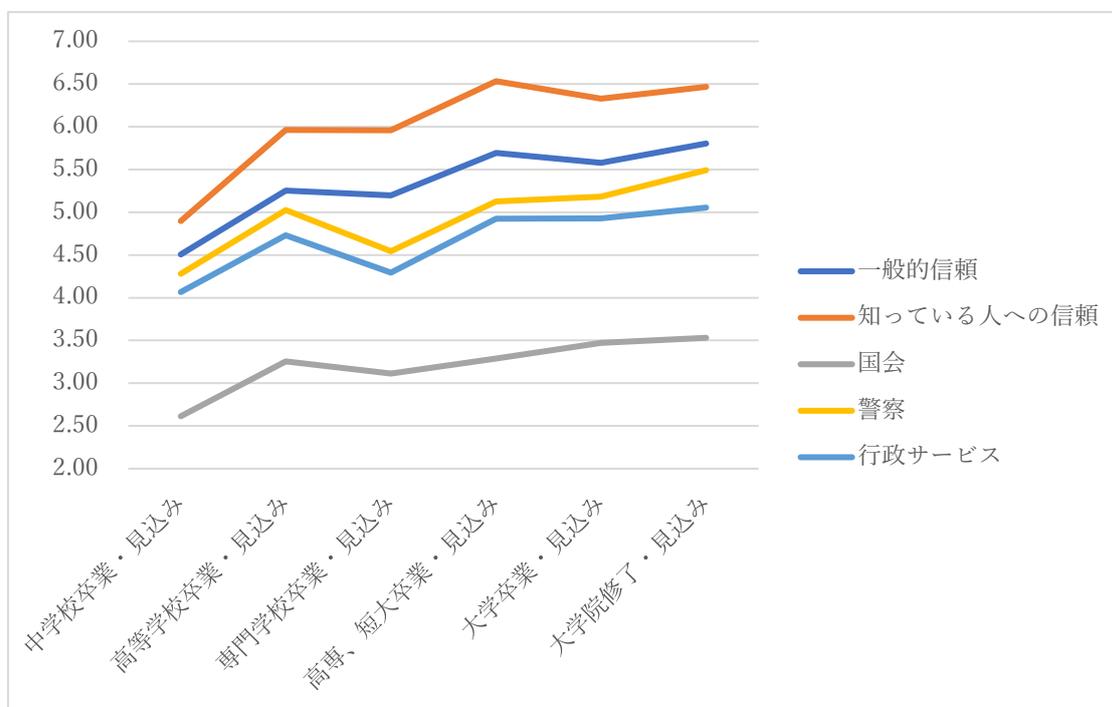
女性



② 学歴別

OECD(2022)の調査においても確認されているが、学歴と信頼度の間には相関関係がある。学歴ごとに年齢構成の違い(別添図表2)があり、年齢の違いによる影響も入るため、比較が難しいものの、学歴ごとの平均信頼度を比較すると(図表8)一般に高学歴の方が様々な信頼度が高いことがうかがえる。

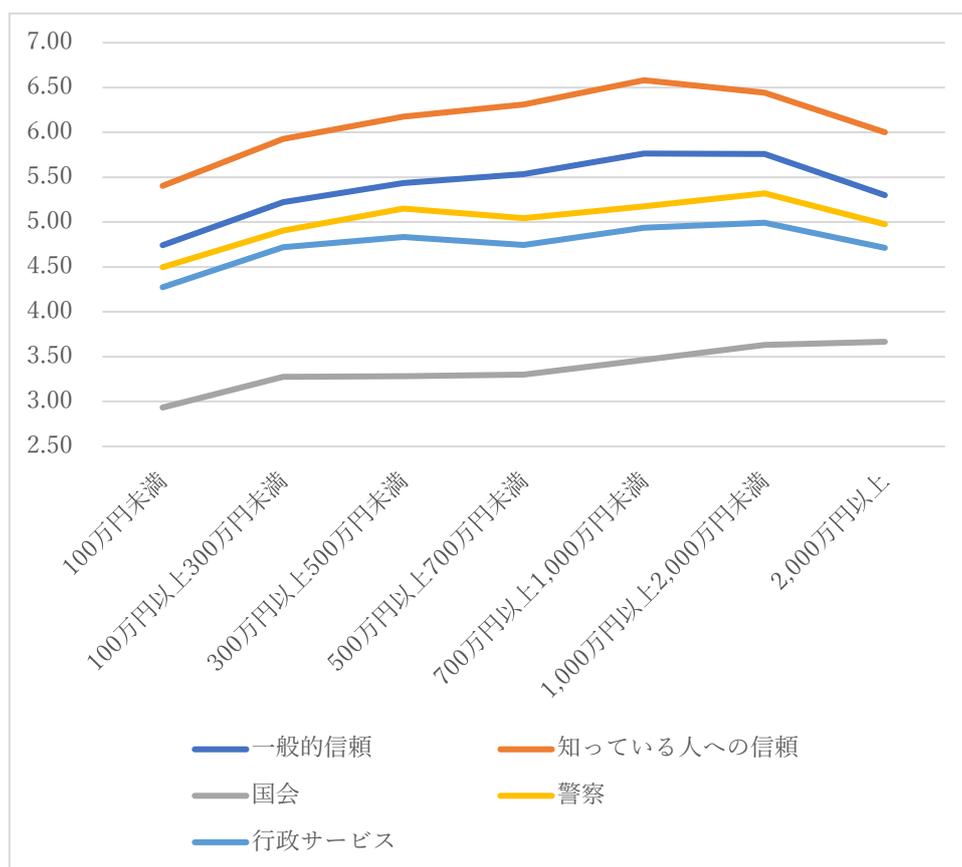
図表8 学歴別平均信頼度



③ 世帯年収別

世帯年収別にみると、信頼度は全般的に世帯年収が増加すると上昇する傾向が見て取れる。但し、世帯年収が2000万円以上になると国会への信頼を除いて低下している。

図表9 世帯年収別平均信頼度



4. 主観的ウェルビーイングとの相関

今回の調査では、ウェルビーイングについて英国国家統計局と同じ、生活満足度、やりがい、昨日の幸福感、不安の4つの質問を調査しているところ、質問の文言は以下のとおりであり、結果は図表10、11のとおりである。

生活満足度 Q1.あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか1つだけ選んでください。

やりがい Q2.あなたは全体として現在の生活の中でしていることにどの程度やりがいを感じていますか。「全くやりがいがない」を0点、「非常にやりがいを感じ

る」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。

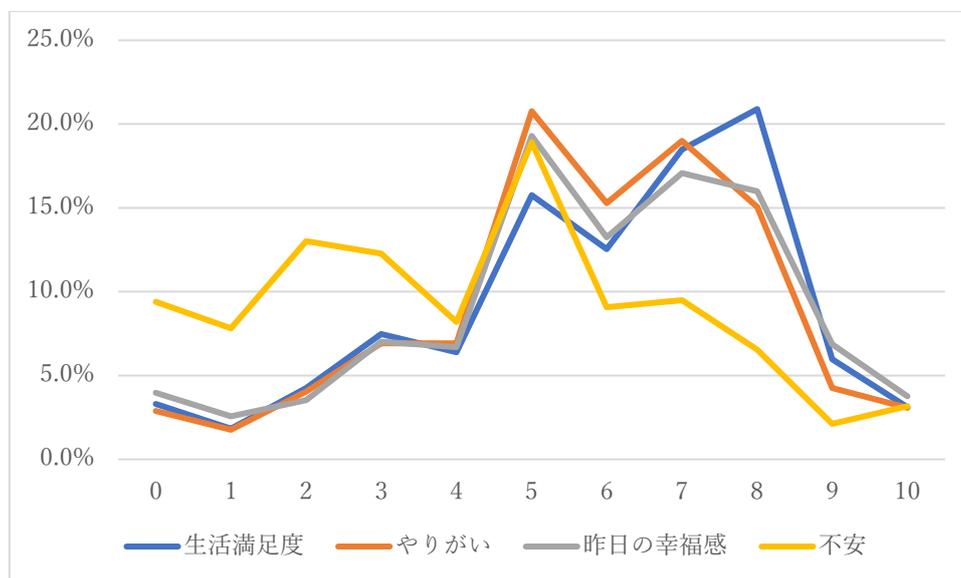
昨日の幸福感：Q3.あなたは昨日、どれくらい幸せを感じましたか。「全く感じなかった」を0点、「一日中感じていた」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。

不安：Q4.あなたは昨日、どれくらい不安を感じましたか。「全く感じなかった」を0点、「一日中感じていた」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。

図表 10 主観的幸福

	回答者数	平均	標準偏差
生活満足度	3120	5.94	2.34
やりがい	3120	5.77	2.20
昨日の幸福感	3120	5.80	2.39
不安	3120	4.22	2.63

図表 11 主観的幸福の分布



生活満足度は8に山がある一方、その他は5に山がある。不安は、他の項目とは違いネガティブな質問であるため、分布は点数が低い方が厚い。また、昨日の幸福感と生活満足度では生活満足度の方が高めである。やりがいは、幸福感より低い。

信頼度との相関係数を見ると一般的信頼や知っている人への信頼と主観的幸福度の相関が強いことが分かる。政府への信頼との関係を見ると、国会が特に弱く、行政サービスが相対的に強い。但しすべての変数間で係数は1%水準で有意である。

図表 12 主観的幸福と信頼の相関係数

	一般的信頼	知っている人への信頼	国会	警察	行政サービス
生活満足度	0.5874*	0.5608*	0.3260*	0.4009*	0.4285*
やりがい	0.5904*	0.5694*	0.2972*	0.3912*	0.4054*
昨日の幸福感	0.5659*	0.5477*	0.2783*	0.3589*	0.3837*
不安	-0.2949*	-0.2952*	-0.0842*	-0.1988*	-0.1859*

(注)*は1%有意。

5. 行政執行能力とかかわりのある調査項目と信頼度の関係

① ワクチン接種と信頼度

政府等への信頼度とワクチン接種の関係については、これまでの調査を用いた分析からは有意に存在していることを実証してきた⁷。

2023年11月時点におけるワクチン接種回数の分布状況は以下のとおりである。高齢者についてはおおむね6回接種が終了し、それ以外の層の5回目接種が進んでいた時点である。接種していないという回答者が一定数存在する。

図表 13 ワクチン接種回数の分布

	回答者数	構成比 (%)
接種していない	345	11.06
1回接種した	28	0.90
2回接種した	350	11.22
3回接種した	683	21.89
4回接種した	551	17.66
5回接種した	433	13.88
6回接種した	730	23.40
合計	3,120	100.00

ワクチン接種回数と信頼度の相関係数を見ると、警察の信頼度との相関が最も強いことが見て取れた。一方、行政サービスより知っている人への信頼との関係の方が強い。

⁷ 桑原他(2022)

図表 14 ワクチン接種回数と信頼度の相関

	ワクチン 接種回数
一般的信頼	0.1602*
知っている人への信頼	0.1622*
国会	0.0972*
警察	0.1647*
行政サービス	0.1519*

一方、性・年齢、かかりつけ医の有無を加え、信頼度とワクチン接種回数の重回帰分析を行ったところ、一般的信頼や知っている人への信頼ではなく、国会、警察への信頼度が有意であった。信頼度とワクチン接種の関係については特に追加の分析が必要であろう。

図表 15 ワクチン接種回数への重回帰分析

	係数	標準誤差	t 値	p 値
一般的信頼	-0.002	0.025	-0.100	0.923
知っている人への信頼	0.034	0.023	1.490	0.135
国会	0.048	0.017	2.780	0.005
警察	0.046	0.021	2.190	0.029
行政サービス	0.011	0.024	0.450	0.655
かかりつけ医の有無	0.630	0.061	10.300	0.000
年齢	0.047	0.002	27.990	0.000
性	-0.117	0.058	-2.010	0.045
定数項	0.425	0.144	2.950	0.003
サンプル数	2932			
自由度調整済み決定係数	0.2968			

② 官民連携への期待と信頼度

本調査では官民連携に関する期待を以下の設問で調査している。

Q46.地域の公共施設・サービスの課題に対して、従来の手法にとらわれず官（公共）と民（民間）が連携していくことは有効だと思いますか。

- 1 有効だと思う
- 2 少し有効だと思う
- 3 有効だとは思わない
- 4 わからない

回答結果は以下のとおりであり、多くの人が期待を寄せている。

図表 16 官民連携への期待

	回答者数	構成比 (%)
1 有効だと思う	967	30.99
2 少し有効だと思う	1,412	45.26
3 有効だとは思わない	278	8.91
4 わからない	463	14.84
合計	3,120	100.00

官民連携が有効であるという回答者は相対的に高い信頼度を回答しており、官民連携事業の有効性にも信頼度が影響すると考えられる。

図表 17 回答別の平均信頼度

	一般的信頼	知っている人への信頼	国会	警察	行政サービス
1 有効だと思う	5.89	6.82	3.48	5.68	5.37
2 少し有効だと思う	5.55	6.21	3.45	5.07	4.83
3 有効だとは思わない	4.71	5.26	2.97	4.12	3.91
4 わからない	4.57	5.26	2.84	4.18	3.90

6. まとめ

本稿はあくまで、内閣府経済社会総合研究所が一橋大学経済研究所との共同研究で実施した2023年11月のweb調査について、特に信頼度の調査結果を中心に速報としてまとめたものであり、調査の全体像については別途報告される予定である。また、パネル化したデータなども用いつつ本格的な研究を実施する予定である。とりあえず現時点では、OECDにおける測定結果との比較から本調査の統計的な信頼性が確認でき、さらに性、年代、学歴と関係があり、一般的信頼や知っている人への信頼は特に主観的幸福と相関すること、ワクチン接種や官民連携への期待と密接な関係があることは分かったと考えている。

参考文献

- 小塩隆士、桑原進、中澤信吾、木村浩巳(2023)「コロナ禍の生活環境と行動変容に関する調査（2021年11月、2022年11月）の概要」ESRI Research note, No.75, 内閣府経済社会総合研究所
- 桑原進、村館靖之、小塩隆士(2022)「政府等への信頼が促進するワクチン接種」、ESRI Discussion Paper No.371, 内閣府経済社会総合研究所
- OECD 編著、桑原進監訳、高橋しのぶ訳(2019)『信頼を測るーOECD ガイドライン』、明石書店 (OECD(2017), OECD Guidelines on Measuring Trust, OECD Publishing, Paris. <https://dx.doi.org/10.1787/9789264278219-en>)
- OECD(2022), *Building Trust to Reinforce Democracy: Main Findings from the 2021 OECD Survey on Drivers of Trust in Public Institutions*, Building Trust in Public Institutions, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/b407f99c-en>.
- Nguyen, David, Valerie Frey, Santiago Gonzalez, Monica Bressi, (2022), “Survey Design and Technical Documentation Supporting the 2021 OECD Survey on Drivers of Trust in Government Institutions”, OECD Working Papers on Public Governance, OECD. <https://dx.doi.org/10.1787/6f6093c5-en>

別添図表1 回答者の地域・年齢別分布

	性	15-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-89 歳	計
北海道地区	男	3	6	8	11	9	10	14	61
東北地区	男	6	10	14	20	17	22	23	112
関東地区	男	27	67	75	96	85	68	99	517
北陸地区	男	3	6	10	13	12	14	14	72
東山地区	男	3	6	7	11	11	13	13	64
東海地区	男	9	19	21	27	24	24	31	155
近畿地区	男	14	28	30	41	37	33	51	234
中国地区	男	5	9	12	14	13	17	19	89
四国地区	男	3	4	7	7	12	9	13	55
北九州地区	男	6	10	13	16	14	17	20	96
南九州地区	男	4	7	9	10	14	14	14	72
男性計		83	172	206	266	248	241	311	1527
北海道地区	女	3	6	8	10	10	11	19	67
東北地区	女	5	9	13	18	17	23	30	115
関東地区	女	26	64	71	91	81	69	124	526
北陸地区	女	3	6	11	12	13	12	18	75
東山地区	女	3	5	7	11	9	9	16	60
東海地区	女	8	17	20	26	23	23	39	156
近畿地区	女	13	28	31	42	39	36	67	256
中国地区	女	5	9	10	17	14	16	25	96
四国地区	女	3	4	8	10	9	10	14	58
北九州地区	女	5	11	13	16	16	19	28	108
南九州地区	女	4	7	9	14	10	14	18	76
女性計		78	166	201	267	241	242	398	1593
計		161	338	407	533	489	483	709	3120

別添図表2 回答者の年齢・学歴別分布

	中学校卒業・見込み	高等学校卒業・見込み	専門学校卒業・見込み	高専、短大卒業・見込み	大学卒業・見込み	大学院修了・見込み	合計
10代	16	71	8	8	56	2	161
20代	4	65	35	21	188	25	338
30代	13	94	61	37	183	19	407
40代	20	136	81	63	203	30	533
50代	13	152	67	79	158	20	489
60代	2	132	41	90	201	17	483
70代以上	11	285	44	106	247	16	709
合計	79	935	337	404	1236	129	3120
構成比							
10代	20.3%	7.6%	2.4%	2.0%	4.5%	1.6%	5.2%
20代	5.1%	7.0%	10.4%	5.2%	15.2%	19.4%	10.8%
30代	16.5%	10.1%	18.1%	9.2%	14.8%	14.7%	13.0%
40代	25.3%	14.5%	24.0%	15.6%	16.4%	23.3%	17.1%
50代	16.5%	16.3%	19.9%	19.6%	12.8%	15.5%	15.7%
60代	2.5%	14.1%	12.2%	22.3%	16.3%	13.2%	15.5%
70代以上	13.9%	30.5%	13.1%	26.2%	20.0%	12.4%	22.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

別添図表3 回答者の世帯年収の分布

	回答者数
100万円未満	222
100万円以上 300万円未満	687
300万円以上 500万円未満	832
500万円以上 700万円未満	562
700万円以上 1,000万円未満	478
1,000万円以上 2,000万円未満	296
2,000万円以上	43